

## 音楽療法士養成校以外の大学における音楽療法教育の可能性 — 教養教育および教育系学部専門教育に焦点を当てて —

藤原志帆 (教育福祉科学部)

### 【要旨】

本稿では、大学の教養教育および教育系学部専門教育における音楽療法学習者への質問紙調査の分析をとおして、受講者の音楽療法に関する認識を明らかにし、音楽療法士養成校以外の大学における音楽療法教育の可能性について考察した。

音楽療法を学ぶことで、学習者は、①自分や周囲の人々の日常生活における音楽との関わりを見つめ直す、②芸術活動の新たな可能性を探る、③教育現場における多様な教育的ニーズをもつ子どもとの関わりを支える知識を得る、④芸術以外の専門分野の研究に新たな視点を見出す、ことができると考えられた。

### 【キーワード】 音楽療法教育、大学、質問紙調査

### はじめに

日本では、1990年代後半から大学における音楽療法士養成教育が始まった。現在、日本音楽療法学会音楽療法士(補)受験資格が取得可能な音楽療法士養成コースは全国27の大学・短大・専門学校に開設されており、各校のカリキュラムに関する議論も盛んに行われている<sup>1)</sup>。一方、音楽療法士養成校以外の大学・短大・専門学校においても音楽療法関係の講義が開講されてはいるが、講義内容に関する研究<sup>2)</sup>は非常に少ないのが現状である。

筆者は、日本音楽療法学会認定音楽療法士として、障がいのある子どもを対象とした音楽科指導や音楽活動について研究しており、平成16年度から本学の教養教育や教育福祉科学部専門教育において、音楽療法関係の講義を担当している。

日本音楽療法学会の定義を用いると、音楽療法は、「音楽の持つ生理的、心理的、社会的働きを応用し、心身の障害の回復、機能の維持改善、生活の質の向上、行動の変容などに向けて、音楽を意図的、計画的に使用すること」と説明できる<sup>3)</sup>。筆者は、このような音楽療法の教育を音楽療法士養成校以外の大学で行うことで、受講者に、日常生活や専門分野における音楽との関わりについて多面的に捉えてほしいと願っている。

音楽療法関係講義受講者の習熟度については、これまで、講義レポートや実践の様子から把握してきた。しかし、音楽療法を学んだ受講者が、自身の音楽療法との関わりをどのように捉えているのかを分析する機会はなかった。

そこで本稿では、これまでに音楽療法関係講義において実施した音楽療法に関わる質問紙調査の分析をとおして、受講者の音楽療法に関する認識を明らかにし、音楽療法士養成機関以外の大学における音楽療法教育の可能性について考察することとした。

### I. 調査の方法

筆者は、本学や他大学において、音楽療法関係科目を5科目担当している。本調査では、このうち、音楽療法を概論的に講義している本学教養教育科目の「いやしの音楽」、本学教育福祉科学部専門科目の「芸術療法概論」、他大学教育学部専門科目の「音楽療法概論」(平

成 18 年度から担当) の 3 科目に焦点を当てる<sup>4)</sup>。

「いやしの音楽」は、本学 4 学部（教育福祉科学部、経済学部、医学部、工学部）の学生を対象とした教養教育科目であり、1 年生以上が受講している。筆者は、講義の前半 7 回を担当し、受講者が、様々な場面における音楽によるいやしの仕組みを読み解き、音楽と人間の関わりを理解できるように講義している。「芸術療法概論」は、本学教育福祉科学部情報社会文化課程総合表現コースの必修科目であり、主として総合表現コースの 3 年生が受講している。総合表現コースの学生は、自身の専門分野（美術、音楽、身体表現）をもちながらも、芸術領域の様々な表現形式を総合的に学んでいる。ここでは、受講者が、音楽療法を中心に、芸術療法に関する基礎的な知識を身につけることによって、対象者のニーズに即した、諸芸術の活用方法を理解できるように講義している。「音楽療法概論」は、筆者が集中講義を行っている他大学教育学部音楽文化系コースの選択科目であり、主として音楽文化系コースの 2 年生以上が受講している。ここでは、受講者が、音楽療法の基礎的な知識を身につけることによって、対象者のニーズに即した、音楽の活用方法について理解できるように講義している。各講義の内容を表 1 に示した。

表 1：調査の対象となった講義の内容

いやしの音楽	芸術療法概論	音楽療法概論
①演奏会における音楽 ②生活空間における音楽 ③病院における音楽 ④療育施設における音楽 *前半 4 回は、音楽療法の歴史、理論などにも触れながら、各場面における音楽による癒しの仕組みを解説する。 ⑤グループ討議と考察 テーマ「〇〇と音楽」 ⑥グループ討議と発表準備 ⑦発表	①ガイダンス ②音楽療法の現在 ③音楽療法の歴史 ④音楽の癒しの力 ⑤音楽療法の実際(1):子ども ⑥同(2):高齢者ほか ⑦音楽療法の理論と方法 ⑧音楽療法士の仕事 ⑨芸術と私の関係 ⑩諸芸術の癒しの力(1):美術 ⑪同(2):身体表現 ⑫同(3):アラカルト ⑬芸術療法の実際(1):計画 ⑭同(2):実施と省察 ⑮まとめ	①音楽療法の現在 ②音楽療法の歴史 ③音楽療法の定義 ④音楽の癒しの力(1) :生理的働き ⑤同(2):心理・社会的働き ⑥音楽療法の理論と方法 ⑦音楽療法の対象者と現場(1) :子ども ⑧同(2):高齢者ほか ⑨音楽療法士への道 ⑩音楽療法と音楽教育 ⑪特別支援教育における音楽 ⑫模擬セッションの計画 ⑬模擬セッションの実施 ⑭模擬セッションの省察 ⑮まとめ

筆者は、音楽療法関係の講義について、講義開始時と終了時に、講義受講者を対象とした質問紙調査を行っている。本稿では、上記 3 科目すべてが対象となった平成 18 年度以降の調査のうち、奇数年度の平成 19 年度および 21 年度（以下「H19」「H21」と示す）に行った調査を分析の対象とする。質問紙調査の内容は、①音楽療法の認知度、②音楽療法への興味、③これまでおよび将来における音楽療法との関わり、などである。本稿では、講義開始時実施調査の上記①、開始時および終了時実施調査の上記②、終了時実施調査の上記③、を分析の対象とする。

## Ⅱ. 調査の結果および考察

### 1. 回答の集計結果

表2に、調査の対象となった講義の受講者数と調査の回答者数を示した。

表2：講義の受講者数と調査の回答者数 単位：人

	年度	受講者数	回答者数	
			講義開始時	講義終了時
いやしの音楽	H19	50	42 (84.0)	43 (86.0)
	H21	50	32 (64.0)	37 (74.0)
芸術療法概論	H19	20	19 (95.0)	16 (80.0)
	H21	19	15 (78.9)	18 (94.7)
音楽療法概論	H19	13	12 (92.3)	13 (100.0)
	H21	31	28 (90.3)	29 (93.5)

\*表中括弧内は、受講者数に占める回答者数の割合。単位は%。

### 1) 音楽療法の認知度

講義開始時に、音楽療法の認知度について以下のように尋ねた。表3に、各講義受講者の音楽療法の認知度を示している。選択肢Aのfは、該当者がいなかったため省略した。

音楽療法を知っていますか？回答としてあてはまる英字を○でかこんでください。Aを選んだ人は、a～fのうち、回答としてあてはまる英字(複数回答可)を○でかこんでください。

A. はい

- a. 音楽療法の実践を行ったことがある
- b. 音楽療法の実践を観察したことがある
- c. 音楽療法に関する講義、研修等を受けたことがある
- d. 音楽療法に関する書籍を読んだり、映像を見たことがある
- e. 音楽療法という言葉聞いたことがある
- f. その他 ( )

B. いいえ

表3：音楽療法の認知度

単位：人

	年度	A. 知っている					B. 知らない	回答者数
		a. 実践	b. 観察	c. 講義	d. 書籍	e. 言葉		
いやしの音楽	H19	3 (7.1)	2 (4.8)	1 (2.4)	7 (16.7)	3 (76.2)	5 (11.9)	42
	H21	0 (0)	0 (0)	4 (12.5)	3 (9.4)	16 (50.0)	12 (37.5)	32
芸術療法概論	H19	1 (5.3)	1 (5.3)	3 (15.8)	4 (21.1)	14 (73.7)	2 (10.5)	19
	H21	0 (0)	1 (6.7)	0 (0)	5 (33.3)	13 (86.7)	0 (0)	15
音楽療法概論	H19	0 (0)	2 (16.7)	1 (8.3)	7 (58.3)	8 (66.7)	0 (0)	12
	H21	1 (3.6)	3 (10.7)	0 (0)	9 (32.1)	21 (75.0)	0 (0)	28

\*表中括弧内は、質問回答者数に占める割合。単位は%

### 2) 音楽療法への興味

講義開始時および終了時に、音楽療法への興味について以下のように尋ねた。表4に、各講義受講者の講義開始時と終了時における音楽療法への興味に関する評価点の平均値を示した。平均値は、「A. 非常にある」を5点、「B. 少しある」を4点、「C. どちらとも言えない」を3点、「D. あまりない」を2点、「E. 全くない」を1点として算出した。

音楽療法に興味がありますか？回答としてあてはまる英字1つを○でかこんでください。  
 A. 非常にある B. 少しある C. どちらとも言えない D. あまりない E. 全くない

表4：音楽療法への興味

	年度	講義開始時		講義終了時	
		評価点	回答者数	評価点	回答者数
いやしの音楽	H19	4.17 (0.66)	42	4.32 (0.57)	41
	H21	3.74 (0.82)	31	4.08 (0.76)	37
芸術療法概論	H19	4.11 (0.57)	19	4.50 (0.52)	16
	H21	4.33 (0.61)	15	4.39 (0.50)	18
音楽療法概論	H19	4.67 (0.49)	12	4.69 (0.48)	13
	H21	4.36 (0.68)	28	4.45 (0.68)	29

\*表中括弧内は標準偏差。

### 3) これまでおよび将来における音楽療法との関わり

講義終了時に、これまでおよび将来における音楽療法との関わりについて、以下のように自由記述を求めた。寄せられた回答は、①音楽療法への興味・関心、②音楽療法に関する知識の日常生活における活用、③音楽療法に関する知識の専門分野に関わる活用、④音楽療法との講義での関わり、⑤関わりなし、に分類された。表5に回答の分類結果を示した。1つの記述が複数の観点に該当する場合は、それぞれに分類した。

- ・音楽療法とあなたの、これまでの関わりについて、自由に述べてください。
- ・音楽療法とあなたの、将来の関わりについて、自由に述べてください。

表5：これまでおよび将来における音楽療法との関わり

単位：人

	年度	いやしの音楽		芸術療法概論		音楽療法概論	
		これまで	今後	これまで	今後	これまで	今後
①興味	H19	3 (8.6)	5 (13.2)	1 (6.3)	4 (25.0)	3 (27.3)	3 (23.1)
	H21	2 (6.9)	5 (16.1)	0 (0)	4 (23.5)	3 (10.7)	9 (31.0)
②生活	H19	23 (65.7)	32 (84.2)	7 (43.8)	6 (37.5)	0 (0)	1 (7.7)
	H21	13 (44.8)	17 (54.8)	8 (44.4)	6 (35.3)	3 (10.7)	7 (24.1)
③専門	H19	0 (0)	4 (10.5)	2 (12.5)	7 (43.8)	2 (18.2)	10 (76.9)
	H21	1 (3.4)	9 (29.0)	3 (16.7)	5 (29.4)	7 (25.0)	12 (41.4)
④授業	H19	5 (14.3)		6 (37.5)		6 (54.5)	
	H21	8 (27.6)		5 (27.8)		13 (46.4)	
⑤なし	H19	4 (11.4)	1 (2.6)	2 (12.5)	0 (0)	0 (0)	1 (7.7)
	H21	4 (13.8)	2 (6.5)	0 (0)	1 (5.9)	2 (7.1)	0 (0)
回答者数	H19	35	38	16	16	11	13
	H21	29	31	18	17	28	29

\*表中括弧内は、質問回答者数に占める割合。単位は%。

## 2. 「いやしの音楽」受講者の音楽療法に関する認識

表6から9に、「これまでおよび将来における音楽療法との関わり」の記述例を示した。

### 1) 講義受講前

音楽療法の認知については、6割強程度（目安として「H19」「H21」の平均値を示す。以下の文章も同様。）の回答者が音楽療法という言葉聞いたことがあるという状況であつ

た（表3：選択肢e「H19」76.2%「H21」50.0%）。音楽療法への興味については、「少しある」かそれ以下という状況であった（表4：開始時「H19」4.17「H21」3.74）。

音楽療法に関わる知識については、日常生活における活用を挙げる回答者が6割弱を占めた（表5：これまで「H19」65.7%「H21」44.8%）。自身の気持ちのコントロールに音楽を活用する例が多く挙げた（表7：これまで「眠れない時などは、音楽をきいてリラックスしていました。」など）。専門分野に関わる活用を挙げた回答者は、両年度通じて1名のみであった。

## 2) 講義受講後

講義の受講によって、回答者は、音楽療法の認識を改めたり（表9：H21「自分が思っているより、私たち生活に密着している」）、音楽療法の実態を把握している様子であった（表9：H21「実施されているところを見たことがなかった。ビデオで見てみて、非常に根気のいるもの（長い時間がかかる）だが、楽しんでいるなーと感じた。」）。

音楽療法への興味については、講義開始時よりも高まる傾向がみられた（表4：終了時「H19」4.32「H21」4.08）。自由記述からは、日常生活や専門分野との関わりでさらに理解を深めたいと考える回答者の姿が伺えた（表6：将来H21「将来医療現場で働くことになるので、もっと理解を深めたい」）。

音楽療法に関わる知識については、日常生活における活用を挙げる回答者が7割程度と多く、受講前に比べて増加している（表5：「H19」84.2%「H21」54.8%）。また、音楽の特性をより意識的に活用していこうと考える者（表8：将来「これからは、気分への影響なども考えて、音楽を聴いていきたい。」など）や、他人との関わりにおいても音楽の特性を活用していこうと考える者（表7：将来「これから、高齢者の方や障害者の方と関わりをもつ機会があるかもしれないので、そんなときはこれまで授業でならったことをいかして接していきたい。」など）が多くみられるようになった。受講前に比べて、専門分野に関わる活用を挙げる回答者も増え（表5：将来「H19」10.5%「H21」29.0%）、3学部の回答者が自身の専門分野と音楽療法の接点を探る回答を寄せた（表8：将来「建築なので音に関する仕事につくかもしれないので、音楽療法を学んでなにかに生かされればと思う。」工学部、「スポーツをしているので、将来指導の立場にたったとき、音楽が効果があるなら、取り入れていきたいと思う。」教育福祉科学部、「チーム医療」医学部）。

表6：音楽療法への興味・関心に触れた自由記述の例（「いやしの音楽」）

	これまで	将来
H19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学の授業のいつかんで一度だけ現場に行ったことがある。</li> <li>・あまり関わりはなかったんですが、心理学に興味があったので人の心をいやすという点で音楽療法にも興味はありました。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など 計3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や友人、家族をいやすために使い、学びたい</li> <li>・直接関わることは無さそうですが、関心が失せる事はないと思います。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など 計5</p>
H21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・VTRや教材で知識は多少有りました。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など 計2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これがあると知っておくだけで、なにか役立つかもしれない。</li> <li>・将来医療現場で働くことになるので、もっと理解を深めたい。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など 計5</p>

表7：音楽療法に関する知識の活用に触れた自由記述の例①（H19「いやしの音楽」）

	これまで	将来
日常生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本格的な音楽療法を受けたことはないが、自分の好きな音楽を聞くとリラックスできることがある。</li> <li>・試合前に集中するために音楽をきいていた</li> <li>・眠れない時などは、音楽をきいてリラックスしていました。</li> <li>・ストレスを感じたときや、気持ちが沈んだときには、音楽を使って解消しようとした。</li> <li>・親戚や祖父母の障害やうつ期の治療に用いるようにしていた。思いつき。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など 計 23</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重いケガを負って入院したとき、気分が落ちこんでいると思うので、気分が晴れるような曲を聴きたい</li> <li>・仕事等のストレスに対応できるかもしれない。</li> <li>・おそらく、音楽はずっとそばにあると思うし、自分が年をとったときにでも、効果を期待して行こうと思う。</li> <li>・各班の発表を聞いて、自分の気分に合わせて曲を選んでいきたい。</li> <li>・大学の登下校中、家などで毎日取り入れたいと思います。</li> <li>・これから、高齢者の方や障害者の方と関わりをもつ機会があるかもしれないので、そんなときはこれまで授業でならったことをいかして接していきたい。</li> <li>・他の人がしんどそうな時になにげなく気分に合っような曲を流す。</li> <li>・福祉活動として音楽療法に関わってみたい</li> <li>・音楽を通じて人との関わりを深めていきたい。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など 計 32</p>
専門分野		<ul style="list-style-type: none"> <li>・私は将来病院などの医療現場で働きたいと思っているので、今回学んだ音楽の力を活かしつつ、心理学的にケアしていきたいと思っています。</li> <li>・医療職に就きたいと考えているので、音楽療法についても考慮していかなければならないと思っています。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など 計 4</p>

表8：音楽療法に関する知識の活用に触れた自由記述の例②（H21「いやしの音楽」）

	これまで	将来
日常生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気分が落ち込んでいるときに、好きな音楽を聞いて、気分転換になった。</li> <li>・音楽を聴くことで、心を落ち着かせた。</li> <li>・疲れた時や、重要な発表会の前など色々な場面で助けられた。</li> <li>・部活の試合前は、必ずテンポの速い曲を聴き、モチベーションを上げていました。</li> <li>・直接「療法」としての関わりはないが、精神病患者で、ほとんど会話ができない人と接したとき、音楽を流したら一緒に歌うことができた。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など 計 13</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会に出て、ストレスを多く感じた時に、音楽でストレス軽減する</li> <li>・これからは、気分への影響なども考えて、音楽を聴いて行きたい。</li> <li>・普段から、まわりの音に耳をかたむけるなどして、音を楽しんでこれからの生活を楽しんでいけたらいいなと思います。</li> <li>・自分が事故等で、脳や神経等に何らかの障害を抱えたときに、治療法として用いられるかもしれない。</li> <li>・医療的な立場になる事はなくても、健常者や悩んでいる人へのアドバイスの一つとして示してみたいと思います。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など 計 17</p>
専門分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのある人（子ども）と交流する際、一番始めに歌ったりして、子どもの気持ちを高めていた（「今から、トレーニングするんだ！」という心の切りかえ）</li> </ul> <p style="text-align: right;">計 1</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築なので音に関する仕事につくかもしれないので、音楽療法を学んでなにかに生かせられればと思う。</li> <li>・今後、「特別支援教育」の道へ進むことになるので、「障がい者」と音楽療法ということで、音楽療法を用いて指導していきたい。</li> <li>・スポーツをしているので、将来指導の立場にたったとき、音楽が効果があるなら、取り入れていきたいと思う。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など 計 9</p>

表 9 : 音楽療法との講義での関わりに触れた自由記述の例 (「いやしの音楽」)

H19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いやしの音楽という講義を通して、非常にいやしといっても幅が広く様々なものがあるということを知ったり聞いたりして知識を得た。</li> <li>・具体的なことは知らなかったけど、授業を受けてビデオで現状を見ることができ、以前よりも興味を持った。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など 計 5</p>
H21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の授業で初めて触れたもの</li> <li>・講義を受けるまでは、音楽療法は病院などで行われているイメージがあったが、講義を受けたことで、自分が思っているより、私たち生活に密着しているということがわかって驚きました。</li> <li>・音楽療法については言葉は聞いたことがあったものの、実施されているところを見たことがなかった。ビデオで見てみて、非常に根気のいるもの(長い時間がかかる)だが、楽しんでいるなーと感じた。</li> <li>・今回グループワークを行うまでは、言葉を聞いたことはあったが直接関わったことはなかった。しかし、今回音楽について調べていくにつれ音楽が人間に与える影響は大きいと感じた。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など 計 8</p>

## 2. 「芸術療法概論」受講者の音楽療法に関する認識

表 10 から 13 に、「これまでおよび将来における音楽療法との関わり」の記述例を示した。

### 1) 講義受講前

音楽療法の認知については、8割程度の回答者が音楽療法という言葉を知ったことがあるという状況であった(表 3 : 選択肢 e 「H19」73.7% 「H21」86.7%)。書籍や映像に情報を求めたことがある回答者も、3割弱程度みられた(表 2 : 選択肢 d)。音楽療法への興味については、「少しある」という状況であった(表 4 : 開始時「H19」4.11 「H21」4.33)。

音楽療法に関わる知識については、半数近くの回答者が日常生活における活用を挙げた(表 5 : これまで「H19」43.8% 「H21」44.4%)。自身の気持ちのコントロールに音楽を活用する例が多く挙げられた(表 11 : これまで「自分がつらいときに、音楽によって、励まされたり、イライラしているときに、音楽を聴いて、心を落ち着かせたりしていた。」など)。また、音楽以外の芸術を専門とする学生も、日常的に音楽を用いて周囲の人々と交流している様子が伺えた(表 12 : これまで「障害のある子どもたちと、音楽療法士の先生と一緒にうたったり、太鼓をたたくバイトをしています。」身体表現)。専門分野における活用を挙げた回答者も数名おり(表 5 : これまで「H19」12.5%、「H21」16.7%)、音楽を専門に学ぶ学生が周囲の人々との関わりにおいて自身の専門性を活かしている様子が伺えた。

### 2) 講義受講後

講義の受講によって、回答者は、新たな世界を知ったり(表 13 : H19「授業を受けることによって新しい世界を知ることができた。」身体表現)、音楽療法の実態を把握している様子であった(表 13 : H21「講義でその内容を学んだり、実際の治療光景を映像でみたりして興味を深めることができました。最後のほうではちょっとした実践も行え、効果を考える側の気持ちも知ることができ楽しかったです。」美術、「この授業でも、老人ホームやカフェでの演奏を通して療法とは言えないが、交流ができた。」音楽)。

音楽療法への興味について、講義開始時よりも高まる傾向がみられた(表 4 : 終了時「H19」4.50、「H21」が 4.39)。自由記述からは、日常生活や専門分野との関わりでさらに理解を深めたいと考える回答者の姿が伺えた(表 10 : 将来H21「障がいのある人と何らかの形でつながっていきたいと思っているので、これからはもっと知りたいと思います。」身体表

現)。

音楽療法に関わる知識については、日常生活における活用を挙げる回答者が受講前に比べて減少し(表5:将来「H19」37.5%「H21」35.3%)、専門分野に関わる活用を挙げる回答者が4割弱程度と多くなった(表5:将来「H19」43.8%「H21」29.4%)。音楽以外の芸術を専門に学ぶ学生が、自身の専門分野と音楽の融合を考えたり(表11:将来「今回授業をうけて将来なりたいものの幅が広がった。私は、音楽と身体(ダンス系)療法の融合ができたらいいなと思った。」身体表現)、芸術療法を将来の仕事にしようとする者もみられた(表11:将来「新しい世界を知り、芸術療法について、職として本当に就いてみたいと思うようになった。私達が携わっている芸術の良さを多くの病を持つ人に伝えられるようになればいいなと感じた。」美術、「音楽には、日々私も助けられているので、将来的には、音楽療法の仕事をしたい。」音楽)。

表10:音楽療法への興味・関心に触れた自由記述の例(「芸術療法概論」)

	これまで	今後
H19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1度だけ、講演会(?)のようなものには行ったことがあった。</li> </ul> <p style="text-align: right;">計1</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な人や知人にその必要があれば、音楽療法も知っておくことで役に立つと思うので、少しずつ勉強するのも良いと思う。</li> <li>・機会があれば、セッションなどにも参加してみたい。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など 計4</p>
H21		<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのある人と何らかの形でつながっていきたくて思っているため、これからもっと知りたいと思います。</li> <li>・音楽療法とは特に将来の関わりはないように思うがアートセラピーにはとても興味がある。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など 計4</p>

表11:音楽療法に関する知識の活用に触れた自由記述の例①(H19「芸術療法概論」)

	これまで	将来
日常生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分がつらいときに、音楽によって、励まされたり、イライラしているときに、音楽を聴いて、心を落ち着かせたりしていた。</li> <li>・私は歌をうたうことや聞くことによってストレス発散をしたりしていた。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など 計7</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元気になりたいとか、穏やかな気分になりたいとか、自分の心を意識しながら、音楽を聞いたりするくらいだと思う。</li> <li>・自ら進んで(本格的な)音楽療法を相手に行う、ということはないだろうと思うけれど、もし自分が困ったときにこんな療法もあるということを知っているだけで心強い。音楽とのいろいろなかわり方を知っていることは、これからの自分にとってもプラスになると思う。</li> <li>・身近な人や知人にその必要があれば、音楽療法も知っておくことで役に立つと思うので、少しずつ勉強するのも良いと思う。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など 計6</p>
専門分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアで知的障害のある人(子供から大人まで)たちと好きな曲を一緒に弾きながら歌ったりした。その時の、みんなの笑顔がとても印象的だった。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など 計2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい世界を知り、芸術療法について、職として本当に就いてみたいと思うようになった。私達が携わっている芸術の良さを多くの病を持つ人に伝えられるようになればいいなと感じた。</li> <li>・今回授業をうけて将来なりたいものの幅が広がった。私は、音楽と身体(ダンス系)療法の融合ができたらいいなと思った。</li> <li>・音楽には、日々私も助けられているので、将来的には、音楽療法の仕事をしたい。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など 計7</p>



表 12：音楽療法に関する知識の活用に触れた自由記述の例②（H21「芸術療法概論」）

	これまで	将来
日常生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の感情のコントロール。癒し。自己表現。</li> <li>・専門的な療法については良く分かりませんが、私自身は楽器を弾くこと、音楽を聴くことで精神的にととても救われた反面、とても悩まされたこともあります。</li> <li>・学校などでの、チャリティー公演。高校時代に所属していたコーラス部の、病院での公演。</li> <li>・障害のある子どもたちと、音楽療法士の先生と一緒にうたったり、太鼓たたくバイトをしています。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など 計 8</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もし、これから心を病むようなことがあれば音楽療法に力をかりるかも知れません・・・</li> <li>・日常生活で、気分転換に音楽を聴いたり、楽器を奏したり、身近なところから触れあっていきたいです。</li> <li>・これから、友人等が悩んでいたら曲を聴いたりすることを勧めようと思う。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など 計 6</p>
専門分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生の頃から病院や心療内科で演奏をしたりしていた。音楽療法士という職業に昔から興味をもっていた。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など 計 3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽療法を通して自分の専門分野とも関連させていきたい。</li> <li>・ボランティア活動や、演奏などやっていきたいと思う。療法士を目指しても、なかなかそれだけでは生活できないので、ボランティアという形でやっていきたい。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など 計 5</p>

表 13：音楽療法との講義での関わり触れた自由記述の例（「芸術療法概論」）

H19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽療法という言葉は知っていましたが、何をやるものかは今回の授業をうけるまで知りませんでした。</li> <li>・今回の講義で、音楽療法がどんなものか、だいぶ分かってきた。</li> <li>・授業を受けることによって新しい世界を知ることができた。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など 計 6</p>
H21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでほとんど関わりがなかったのですが、講義でその内容を学んだり、実際の治療光景を映像でみたりして興味を深めることができました。最後のほうではちょっとした実践も行え、効果を考える側の気持ちも知ることができ楽しかったです。</li> <li>・この授業でも、老人ホームやカフェでの演奏を通して療法とは言えないが、交流ができました。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など 計 5</p>

### 3. 「音楽療法概論」受講者の音楽療法に関する認識

表 14から 17に、「これまでおよび将来における音楽療法との関わり」の記述例を示した。

#### 1) 講義受講前

音楽療法の認知については、7割程度の回答者が音楽療法という言葉聞いたことがあるという状況であった（表 3：選択肢 e 「H19」 66.7% 「H21」 75.0%）。書籍や映像に情報を求めたことのある者が5割弱程度、実践の観察を行ったことがある者が1割強程度存在した（表 3：選択肢 b・d）。音楽療法への興味については、「少しある」から「非常にある」という状況であった（表 4：開始時 「H19」 4.67 「H21」 4.36）。

音楽療法に関わる知識については、専門分野における活用を挙げる回答者が2割程度と多く（表 5：これまで 「H19」 18.2%、「H21」 25.0%）、これまでも周囲の人々との関わりにおいて自身の音楽に関わる専門性を活かしていた様子が伺える（表 16：これまで「老人ホームのデイサービスで、歌を歌うコーナーに関わったことがある。この講義をとるまで気付かなかったが、あれも昔の曲を大勢で歌うことで認知症の防止や、不安からの解消などに役立っていたのだなあと感じた。）。日常生活における活用を挙げた回答者は少なかった（表 5：これまで 「H19」 0% 「H21」 10.7%）。

## 2) 講義受講後

講義の受講によって、回答者は、音楽療法への認識を改めたり（表 17：H19「授業を受ける前までは、何かを聞かせることが主だと思っていたが、クライアントの主体性をうまく引き出すことも必要で、そのサポート役としてセラピストがいるのだと思った。」など）、音楽療法の実態を把握している様子であった（表 17：H21「集中講義で、セッションの体験をした。実践を通して、クライアントとの関わり方やセッションの進め方の難しさを体験した。」など）。

音楽療法への関心については、講義開始時よりも高まる傾向がみられた（表 4：終了時「H19」4.69「H21」4.45）。自由記述からは、音楽の可能性を改めて認識し、さらに理解を深めたいと考える回答者の姿が伺えた（表 14：将来H19「音楽自体の良さを私自身改めて感じる事ができたので、生涯何かの形で関わりたいと思いました。」）。

音楽療法に関わる知識については、受講前と同様に専門分野における活用を挙げる回答者が6割程度と多く、受講前に比べて増加する傾向にあった（表 5：将来「H19」76.9%「H21」41.1%）。講義後半で筆者が特別支援教育における音楽の活用に焦点を当てたことも影響していると考えられるが、将来教育現場において、多様な教育的ニーズをもつ子どもと関わる際に、音楽療法の理論や方法を活用しようとする者が多くみられた（表 15：将来「特別支援学校の教員になった時には、授業等の活動の中に音楽を積極的に取り入れていきたい。」、表 16：将来「行動療法のようなことは、小学校の音楽の授業とかでも使えるのかなと思いました。」、「小学校教育の中で、クラスにいる特別支援が必要な子どもに対して音楽を活用してはたらきかけていく。学級経営に音楽を取り入れたい。」、「障害を持っている子どもたちだけでなく、ストレスなど心に病を抱えている子に対しても、音楽を通じて、一緒に楽しんだり、心の解放を行ったり解放、楽しさを伝えていきたい。」）。日常生活における活用を挙げる回答者も、2割弱と受講前に比べて増加した（表 5：将来「H19」7.7%「H21」24.1%）

表 14：音楽療法への興味・関心に触れた自由記述の例（「音楽療法概論」）

	これまで	今後
H19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雑誌や本で見る程度です。</li> <li>・本を通して、精神医学の分野から心と音楽のかかわりについて読み、興味をもちました。</li> </ul> <p>など 計 3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと勉強して、学校の先生になった時に役立てたい。</li> <li>・音楽自体の良さを私自身改めて感じる事ができたので、生涯何かの形で関わりたいと思いました。</li> </ul> <p>など 計 3</p>
H21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私は実は高校のときぐらいまで音楽療法士になりたくて、インターネットで調べたり、本もちょっと読んでいたのですが、現実的には難しいのかなどか思ってあきらめていました。そういう大学ではないし、即興とかあまりできないし・・・でも今回の講義を受けて、また興味がわいてきました。</li> </ul> <p>など 計 3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業でとても興味をもてました。音楽で人を元気にさせたり、健康面に関われることはすごいことだと思ったので、これから、勉強したい！！と思いました。</li> <li>・少し興味はあるので、これからはこの職業につきたい！というきっかけがあれば勉強したいと思います。</li> <li>・実際に療法する時があれば、今回の体験を活かして取り組みたい。音楽療法がもっと注目される世間になればよいと考える。</li> <li>・音楽でクライアントを少しでも幸せな気持ちにさせることができたり、症状を緩和させたりできるなら、関わってみたいと思いました。</li> </ul> <p>など 計 9</p>

表 15：音楽療法に関する知識の活用に触れた自由記述の例①（H19「音楽療法概論」）

	これまで	将来
日常生活		<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽療法そのものをするのではないかもしれないが、ふだんの生活の中でそれに似たマネごとをする可能性はあると思った。</li> </ul> <p style="text-align: right;">計 1</p>
専門分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアで、障害児の音楽活動を手伝いに行ったことがあります。あと、老人ホームに演歌や民謡を演奏しに行ったことがあります。いずれも“音楽療法”という意識やスタンスで行ったつもりはありませんが、音楽を通してコミュニケーションできたことがとても印象に残りました。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など 計 2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育の中でも即興的に演奏したり、体を動かしたりすることで、コミュニケーションの手段として用いたい。</li> <li>・今まで音楽療法＝治療というイメージが強すぎ、普通学級においては、無縁のものであろうと思いついていましたが、今回授業を聴講し必ずしも対象者は障がい者や高齢者だけではないことが分かりました。「療法」という名目で音楽を用いる機会はないにしても、音楽の授業等の時間で少しでも音楽を用いて児童（生徒）に働きかけることができたらなあと思います。</li> <li>・「療法」と言うと、すごく専門的で、対象もお年寄りや障害児など医療的なものとかかわりのイメージがありますが、音楽のもつ癒やし、解放的、自己表現を支える力は、あらゆる人にとって必要だと思っています。私は将来教員を希望しているので、そこでかかわる人に少しでも音楽療法の考えや方法を用いて力になればと思います。けれどそれは音楽療法士としてではなく教員として用いるので、考え方や方法がすべて使えるわけではないと思っています。ので、どう取り入れていくのがいいのか、考えていきたいと思っています。</li> <li>・特別支援学校の教員になった時には、授業等の活動の中に音楽を積極的に取り入れていきたい。</li> <li>・小学校で、今回ならったことを使って、みんなが仲良くなったりするのに使いたいと思った。発達障害の子との関係づくりやカウンセリングにも適していると思う。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など 計 10</p>

表 16：音楽療法に関する知識の活用に触れた自由記述の例②（H21「音楽療法概論」）

	これまで	将来
日常生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気分に合わせて音楽を選ぶ。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など 計 3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の気分変化に使う。</li> <li>・いつか、自分の親せきも様々な問題を抱えるようになるだろう。その時に少しでも音楽の力で何かひらけたらなと思った。</li> <li>・特に病気や障がいを持っていない人でも、一時的に心がやんだりすることがあるし、音楽療法は全ての人にあてはまると思うので、いろいろな人の気分が少しでもよくなるようなお手伝いができたら良いと思う。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など 計 7</p>
専門分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老人ホームのデイサービスで、歌を歌うコーナーに関わったことがある。この講義をとるまで気付かなかったが、あれも昔の曲を大勢で歌うことで認知症の防止や、不安からの解消などに役立っていたのだなあと感じた。</li> <li>・20～60代を対象とした、音楽活動。小～中学生を対象としたクリスマスコンサート</li> <li>・福祉施設への演奏など</li> </ul> <p style="text-align: right;">など 計 7</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動療法のようなことは、小学校の音楽の授業とかでも使えるのかなと思いました。</li> <li>・教員として特支に行くことになったら必要。特別支援学級やADHDの生徒への指導にも。非常にためになった。</li> <li>・小学校教育の中で、クラスにいる特別支援が必要な子どもに対して音楽を活用してはたらきかけていく。学級経営に音楽をとり入れたい。</li> <li>・障害を持っている子どもたちだけでなく、ストレスなど心に病を抱えている子に対しても、音楽を通じて、一緒に楽しんだり、心の解放を行ったり解放、楽しさを伝えていきたい。</li> <li>・特別支援学級の先生になりたいのですが、その中で活用していけると思いました。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など 計 12</p>

表 17：音楽療法との講義での関わり触れた自由記述の例（「音楽療法概論」）

H19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を受ける前までは、何かを聞かせることが主だと思っていたが、クライアントの主体性をうまく引き出すことも必要で、そのサポート役としてセラピストがいるのだと思った。</li> <li>・音楽の特性を生かして、また音楽を手段として、感情を表現するなどといったことは、割と身近で行われているのかなと感じました。</li> <li>・セラピストと一緒に歌っているところしか知らなかったけど、いろんな情報をもとにそのクライアントに寄り添ってたくさんの治療法をみ出し、そのクライアントに一番必要だと思われることを選んでやっていたのか！！と思いました。                          など 計 6</li> </ul>
H21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集中講義で、セッションの体験をした。実践を通して、クライアントとの関わり方やセッションの進め方の難しさを体験した。</li> <li>・3日間の授業を受けて、音楽療法が思っていたよりも理論にのっとってやっていることが分かりました。</li> <li>・この3日間で、音楽療法とはどのようなものなのか、少しわかった気がします。ただ音楽活動をするというのではなく、クライアントの状況を踏まえた上で処方するという、医学や福祉の面が存在するというところに改めて気づきました。</li> <li>・授業を受けて、“音楽で人は救えない”と思っていたけどそれが変わった。“少しなら助けることができるかも”というふうに。</li> <li>・あまり音楽療法にふれたことはなかったが、今回学んでみて視野が広がった。</li> <li>・授業で、詳しく知って、音楽はすごいと思った！模擬で実践をしてみたが、特別なスキルがないと難しいことを実感した。                          など 計 13</li> </ul>

### Ⅲ. 音楽療法士養成校以外の大学における音楽療法教育の可能性

#### 1. 教養教育

「いやしの音楽」の受講者は、講義受講前から、意識的あるいは無意識のうちに日常生活において音楽を活用していたようである。しかし受講後、自分だけではなく周囲の人々との関わりも含めて、より意識的に音楽の特性を活用しようとする者がみられるようになった。また、音楽療法と自身の専門分野の接点を探る者もみられた。

稲田（2003）は、音楽療法を「音楽という芸術の営みの、もっとも根源的な様相を具現化した姿である」と述べ、音楽療法における音楽を「人間の情緒をそのまま表出した音楽ではなく、『いま、ここで』生きる人間に共有される表象となって、セラピストとクライアントのあいだで交換されながら発展する音楽」としている<sup>5)</sup>。このように、他者との共有を重視し、対象者の実態に即して計画的に音楽の特性を活用する音楽療法を学ぶことで、学習者は、音楽と人間の関わりについて理解を深め、自分や周囲の人々の日常生活における音楽との関わりを見つめ直すことができると考えられる。また、ブルシア（2001）は、音楽療法を「普遍的な境界線をもって明確に定義できるような、単一で孤立した学問分野ではない……音楽と療法のまわりにあるたくさんの学問分野のダイナミックな組み合わせである。」と述べている<sup>6)</sup>。学際性をもつ音楽療法を学ぶことで、学習者は、自身の専門分野の研究に新たな視点を見出すことができると考えられる。

#### 2. 教育系学部の専門教育①表現を総合的に学ぶ学生の教育

「芸術療法概論」の受講者は、講義受講前から、自身の日常生活において音楽を活用し、音楽を用いて周囲の人々と関わりをもっていたようである。講義受講後も、日常生活において音楽の特性を活用しようとする者は多かったが、音楽と他の芸術の融合を考えたり、将来芸術療法の仕事に就きたいと考える者もみられるようになった。

ブルシア（2001）は、「音楽は単に非言語的な音だけではなく、言葉、動き、そして視覚イメージをも含めることができる。つまり音楽は音楽に固有のものだけをコミュニケーションするのではなく、言語的および非言語的コミュニケーションの他の形式を拡大したり高めたりすることもできるのである。」とし、「言語的なものから音楽的なものへ、そしてさらに他の非言語コミュニケーションの経路へと移行していく柔軟性を持っているのは、音楽療法の最も優れた部分である」と述べている<sup>7)</sup>。このように多様なコミュニケーションの媒体との関わりを大切にする音楽療法を学ぶことで、芸術を総合的に学ぶ学習者は、芸術表現の新たな形を創造することができると考えられる。また、徳田（1998）は、芸術療法の成り立ちについて、「絵画や造形、詩歌やダンスなどの活動が、人間の心の動きと身体の営為に深く関連し、密接不可分なものであることが認識されてきたのである。また、さらにそれらは生命活動や生命感情にとって欠くべからざる機能の一部をなしている。喜怒哀楽・憂い・不安・苦悩などの人間の絶えざる心の動きは、表現活動・芸術活動を通じ、精神保健・医療と深いつながりをもつといえよう。」と述べている<sup>8)</sup>。このような芸術療法の一貫である音楽療法を学ぶことで、学習者は、芸術の精神保健・医療との深いつながりを再認識し、芸術活動の新たな可能性を探ることができると考えられる。

### 3. 教育系学部の専門教育②音楽を専門に学ぶ学生の教育

「音楽療法概論」の受講者は、講義受講前から音楽療法に高い関心を寄せ、周囲の人々との関わりにおいて自身の音楽に関する専門性を活かしていたようである。講義受講後は、音楽のもつ可能性を再認識し、将来教育現場で多様な教育的ニーズをもつ子どもと関わる際に、音楽療法の理念や方法を活用しようとする者がみられるようになった。

生野（1998）は、音楽療法における即興について「セッションの中心は対象者の心の動きであり、それを支え、進め、表現し、共感するために音楽があるのである。この『相手本意の柔軟性』という、音楽療法の音楽の本質を最大限に尊重した形が、即興演奏ということになる。即興演奏を使えば、一瞬一瞬の対象者の心の動きや行動に、会話やしぐさで応えるように、音楽で応えていける。そして、その人の能力や個性のみならず、その時の気分や、関心のあることを活かした活動を可能にする。」と述べている<sup>9)</sup>。このように対象者に寄り添う姿勢を基本とする音楽療法を学ぶことで、学習者は、多様な教育的ニーズをもつ子どもの表現を引き出す視点を得ることができると考えられる。また、子どもを対象とした音楽療法では、「①音楽は、生理的な影響をもたらす、②音・音楽は、様々な感覚への刺激となる、③音楽の各活動は、常に運動を伴う、④音楽の活動には、認知に関するものが多い、⑤音楽は、コミュニケーションの手段である、⑥音楽の活動には、社会的な要素が多く含まれる、⑦音・音楽は、心理的な抑圧（ストレス）からの解放によい効果をもたらす」<sup>10)</sup>などの音楽の特性を活用して子どもの発達を促すことが中心となる。このように音楽の特性を活用して発達を促す音楽療法を学ぶことで、学習者は、多様な教育的ニーズのある子どもの実態に即した音楽活動を展開するための知識を得ることができると考えられる。

## おわりに

本稿では、大学の教養教育および教育系学部専門教育における音楽療法学習者への質問紙調査の分析をとおして、受講者の音楽療法に関する認識を明らかにし、音楽療法士養成校以外の大学における音楽療法教育の可能性について考察した。その結果、受講者の音楽療法に関する認識から、音楽療法教育の可能性をいくつか見出すことができたが、講義の課題も明らかになった。

「いやしの音楽」は4学部の学生が受講しているが、講義受講後に、音楽療法と自身の専門分野の接点を見出した学生は3学部にとどまった。今後は、受講者の多様な専門分野にアプローチできるように、講義内容を工夫していきたい。

「芸術療法概論」の受講者の中には、講義受講後に、芸術療法を仕事にしたいと考えながらも職業的自立に不安を抱く者もみられた。芸術療法に関わる仕事は職業的自立に課題を抱えるケースも多いが、今後は、どのような場で、芸術療法に関わる専門性を活かすことができるのかについて、講義で具体的な情報を提示していきたい。

「音楽療法概論」の受講者の中には、講義受講前、周囲の人々との表現活動において自身の音楽に関する専門性を活かしている者もみられた。しかし講義受講後については、表現活動において音楽療法に関する知識を活用しようとする受講者がみられなかった。今後は、聴衆のニーズに即した表現活動の展開についても講義で扱っていきたい。

## 注および引用

- 1) 日本音楽療法学会 (2010) 『第10回日本音楽療法学会学術大会要旨集』 日本音楽療法学会, pp.198-199 など
- 2) 安田伸子(2007) 「本学の音楽教育における音楽療法授業導入に関する一考察—音楽の機能に関する調査より—」 『甲子園短期大学紀要』 26, pp.115-123.
- 3) 日本音楽療法学会HP <http://www.jmta.jp/>
- 4) 本学教育福祉科学部専門科目の「音楽療法概論」および「アートセラピー演習」の2科目については、実践的な内容を多く含むため対象から除外した。
- 5) 稲田雅美(2003) 『ミュージックセラピィー対話のエチュード—』 ミネルヴァ書房, p.202.
- 6) ケネス・E・ブルシア (2001) 『音楽療法を定義する』 (生野里花訳) 東海大学出版会, p.9.
- 7) 同上書, p.71.
- 8) 徳田良仁 (2003) 「精神医学と芸術療法」 徳田良仁ほか監修 『芸術療法 I 理論編』 岩崎学術出版社, pp.11-12.
- 9) 生野里花 (1998) 「即興演奏」 日野原重明監修 『標準音楽療法入門 (下) 実践編』 春秋社, pp.269-270.
- 10) 遠山文吉 (2005) 『知的障害のある子どもへの音楽療法—子どもを生き生きさせる音楽の力—』 明治図書, pp.15-17.